

NII 学術情報基盤オープンフォーラム 2024
認証トラック2

学認 IAL/AAL について

坂根 栄作

国立情報学研究所
アーキテクチャ科学研究系
トラスト・デジタルID研究開発センター / 学術認証推進室

学認 IAL/AAL - 何を解決するのか？

- 素朴で重要な疑問：学認は信頼できるのか？
 - 学認が認証するユーザの身元保証をより強い基準で担保してほしい
 - 例：研究プロジェクト等は独自で行っている身元確認を、学認を信頼することにより簡略化したい（委譲または依拠したい）
 - 多要素認証を経たより強い認証情報（本人認証）を学認から受け取りたい



- 学認から得られる認証情報（クレデンシャル／アサーション）の保証度について、研究プロジェクト等が求めるより高い保証度に応えられる文書が必要であり、それを遵守する運用が必須

- 従来の学認は、LoA1 の認定が可能



- さらに強い基準を規定するのが、新しい学認 IAL2/AAL2

保証度：Assurance Level
LoA1：Level of Assurance 1
IAL：Identity Assurance Level
AAL：Authenticator Assurance Level

学認 IAL/AAL の広がり



新しい学認 IAL/AALが、外部ID基盤/IdP との連携や研究プロジェクトにおける利活用の議論を可能とする

学認 IAL/AAL の広がり - 国際認証連携・相互運用



REFEDS Assurance Framework, IGTF Profiles of Authentication Assurance との相互運用性の議論を新しい学認 IAL/AAL 文書に基づいて行うことが可能

学認 IAL2/AAL2 の本格運用に向けて

- Identity Provider (IdP)
 - 身元確認における保証度の評価
 - 当人認証における保証度の評価
 - 認証器レジストリの利活用
- Service Provider (SP)
 - 求める認証保証度の要件整理
- Federation Operator (FO) としての学認
 - 基本文書の策定、公開、更新
 - 中規模実証実験の実施